

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-4-3 子育て支援の充実
---------	---------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	子ども・子育て支援課長 河原 賢	電話番号	0852-22-6071
----------	------------------	------	--------------

事務事業の名称	みんなで子育て応援事業（こっころ事業）		
目的	(1) 対象	子どもやその保護者、子育て家庭を取り巻く県民	
	(2) 意図	誰もが、子どもや子育てに関心を持ち、子育てを社会全体で応援する気運を醸成する	
事業概要	子育て家庭や妊娠中の方がいる家庭に対し、協賛店において様々な子育て支援サービスを受けることのできるパスポートを交付する。子育て応援に取り組む民間団体や子育て支援の担い手の活動を活性化するため、当該団体や担い手に対し、活動経費の一部を支援するメールマガジン「こっころ通信」やしまね子育て応援サイト「こことも」を運営し、スマートフォン対応の子育て情報発信の充実を図る。子育てを社会全体で応援する気運醸成や子育て支援の取組の普及啓発を図るため、特に優れた子育て支援団体等を表彰（こっころ大賞）する。子育てや子ども、家族に関する楽しさ、うれしさや感動などをひとことでも表した「ここのは」作品を募集し、優秀作品を表彰する。乳幼児を連れて家族が安心して外出できる環境を整備するため、おむつ替えや授乳など自由に利用できる施設を登録し周知する。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	こっころ事業の協賛店舗数	目標値	2,380.0	2,410.0	2,440.0	2,470.0	2,500.0	店
			取組目標値		2,550.0	2,600.0	2,650.0	2,700.0	
	式・定義	こっころ事業の協賛店舗数（累計）	実績値	2,532.0	2,552.0				
			達成率	106.4	100.1				%
2	指標名	赤ちゃんほっとルーム登録数	目標値	320.0	340.0	360.0	380.0	400.0	箇所
			取組目標値						
	式・定義	赤ちゃんほっとルーム登録数（累計）	実績値	299.0	299.0				
			達成率	93.5	88.0	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	12,242	6,166
うち一般財源(千円)	4,148	5,866

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- こっころパスポート事業は事業開始から10周年となり、パスポート発行数は累計で10万枚を超え、そのメモリアルイベントには、メインイベント、サテライトイベント合わせて16千人の集客で賑わった。
- こっころパスポート事業の協賛店舗は、廃業等による脱退が85店舗あったが、新規登録が105店舗あり、20店舗増の2,552店舗となった。うち、中国5県連携店舗が419店舗、全国共通展開対応店舗が389店となっている。
- こっころ隊の登録団体数は、10団体増の193団体、こっころ講師の登録数は11人増の142人となった。また、支援制度による講師派遣回数は56回（のべ67人）となった。
- 第15回目となった「ここのは大賞」には、前年度並みの2,135点の応募があった。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

こっころパスポート事業の協賛店舗についても、順調に増加するなど「こっころ」は、パスポート事業はもとより、島根県の子育て支援の代名詞として広く浸透し、また、「ここのは」についても、長い歴史の中で、学校での授業で取り入れられるとともに、民間企業の自主企画でも活用されるなど、事業全体として地域全体で子育てを応援する機運醸成に大いに寄与している。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- 「こことも」での発信内容がまだ十分ではなく、活用が進んでいない。
- 赤ちゃんほっとルームの登録数が増えていない。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- 「こことも」での発信内容のさらなる充実を図る必要がある。
- 赤ちゃんほっとルームの登録制度の周知が進んでいない。

### ③原因を解消するための「課題」

- 「こことも」での発信情報の収集や手法を類似した「こっころ通信」事業とともに見直す必要がある。
- 赤ちゃんほっとルームの登録制度のPRと登録施設情報の発信を強化するなどし、登録メリットを増やす必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 「こっころ」の一層の浸透を図り、子育て支援の輪を広げていく（量的拡大）とともに、「こっころ」のイメージやネットワークを活かした取組を実施することで、効果的かつ相乗的な事業展開を図る（質的向上）。
- こっころパスポート事業：全国展開対応パスポートへの切替も進んできており、それを主目的として実施しているサテライトイベントは必要に応じて市町村主体で実施
- こっころ大賞事業：ここのは大賞については、子育て支援の機運醸成に大きな役割を果たしており継続していくが、こっころ表彰については、対象を絞る方向で調整
- こっころ隊講師登録派遣事業：講師ごとの年間派遣回数の制限を撤廃するとともに、同じ団体が連続して同じ講師を招へいする場合を制限する方向で制度を見直し、団体の自主的な取り組みを促す。同時に制度のPRを強化
- スマホサイト「こことも」による情報発信事業：「こことも」の内容充実を図るため、掲載情報を収集する仕組みを強化するとともに、役割が重複している県HPへの掲載は廃止する方向で調整
- 赤ちゃんほっとルーム登録事業：「こことも」の内容充実を図る中で、事業のPR等を強化